

## 課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面において子供が読書活動を行う上での課題

## 事業のねらい

- (1) 黙食を行う小学校の給食時間に朗読放送を行い、関連図書の設置を実施することで読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。
- (2) 学童保育所や困難を抱える子供へのコミュニケーションを通じて小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。
- (3) 上記の取組に対し県がボランティアの養成や図書貸出の支援を行うことで、人材や、蔵書量に課題を抱える自治体でも取組が導入可能か検証

## 実施内容

## ①かつらぎ町での取組

(かつらぎ町へ再委託)



【取組内容】

かつらぎ町内の小学校  
(5校 721人)

【取組内容】

黙食を行っている小学校の給食時間に、ボランティアが作成した朗読録音CDやライブ朗読を放送し、読書への興味を誘った。同時に朗読図書を含む関連図書を学校へ貸出しを行い、読書につなげた。

## ②学童保育所や困難を抱える子供への取組

(那智勝浦町へ再委託)

【対象】

那智勝浦町内の学童保育所 4 か所  
(小学校 1～4年生約 40名)  
困難を抱える子供 (不登校)  
で青少年センターの学習指導に通う生徒、児童8名・4家庭に訪問



【取組内容】

興味関心を聞き取りながら、書籍・電子書籍の紹介などを行いながら、読書を促した。

## ②ボランティア養成及び図書貸出の支援

(和歌山県が実施)



上記、かつらぎ町の朗読ボランティアの養成講座を実施。また不足する図書についても県立図書館から貸出を行った。

## 成果・課題

【成果】

(かつらぎ町での取組)

アンケートでは大きな変化は見られなかったが、関連図書を手にする児童が多く見られたことから、読書のきっかけづくりとして一定の効果は確認できた。

(学童保育所での取組)

テーマ別の配本を行うことにより、様々な本について知り、興味をもった本を見つけることができた。

(困難を抱える子供への取組)

大人と一緒に本を勧めあう時間を持つことにより、子供どうしで本を勧めあうようになった。

【課題】

(かつらぎ町での取組)

不読者の減少や、読書冊数の増加が数字での効果が現れにくい、読書への興味の定着化を図るために継続しての取組が必要である。

(学童保育所での取組)

電子書籍は興味関心の対象となるが、提供の方法や場面の設定にも工夫が必要である。